

令和4年度 全国学力・学習状況調査（令和4年4月19日実施）

三田市の結果概要

「自分が好き、人が好き、このまちが好き、
夢にむかって歩むさんだっ子」

をめざして

三田市教育委員会

本市の結果をお知らせします！

令和4年4月19日に文部科学省による「全国学力・学習状況調査」を行いました。

今年で14回目を迎えるこの調査は、文部科学省が全国の児童生徒の学力や学習状況を調べ、義務教育の成果と課題を確かめ、改善を行うために実施するものです。

三田市では、これまでの調査結果も活用し、分析を進めました。

本市の「国語、算数・数学、理科」と「質問紙調査」についての分析結果についてお知らせします。

Ⅰ 本調査のとらえ方

三田市教育委員会では、この調査の結果を受け、三田市学力向上推進委員会を開催し、三田市の結果分析を進めてきました。三田市の平均正答率は、過去13回と同様に、小学校・中学校共に全国・県平均を上回り“良好”でした。

また、「教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）」と「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」との関連についても分析した結果、

- ①「朝食を毎日食べている。」
- ②「家で自分で計画を立てて勉強をしている。」
- ③「これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。」
- ④「友だちと協力するのは楽しいと思う。」

などと回答している子どもは、平均正答率が高い傾向が見られました。

さらに、各学校においても結果を分析し、学力向上に向けた様々な取組の成果と課題を明らかにし、今後の改善につなぎます。

次代を担う子どもたちが、基本的な生活習慣や学習習慣を身に付け、健やかに育ち、心豊かに生きていくためには、学校と家庭、地域の協力や連携がとても大切です。

三田市教育委員会は、調査結果から見えてきた成果と課題を踏まえ、子どもたちの『生きる力』を育成していくための取組を進めてまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

2 調査の概要及び公表方法について

(1) 調査の実施日 令和4年4月19日(火)

(2) 調査の対象 小学校6年生(市内20校 1003名)

中学校3年生(市内8校 870名)

(3) 調査内容

①教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ・知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実施し評価・改善する力等
- ※調査問題では、上記2点(知識、活用等)を一体的に問う

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

(4) 公表方法について

本結果概要では、全国や兵庫県の状況を踏まえた上で、教科と領域ごとの結果と、本市の子どもたちの優れている点やつまづきが見られる点について明らかにすると共に、学びのポイントについて総合的に分析した結果の一部を記載しています。

同様に、子どもたちの学習や生活に対する意識や実態等について、「教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)」と「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」の二つの結果をもとにした、「児童生徒質問紙調査の結果と教科調査とのクロス集計分析」を記載しています。

また、国・県においては、細かい桁によるわずかな差は、学力面での実質的な違いを示すものではないと考えられるとして、各教科の平均正答率は整数値で公表しています。

三田市もこれに準じ、各教科及び領域の平均正答率は、小数点以下を四捨五入した整数値で公表します。ただし、質問紙の数値については、従来通り、小数点以下第1位の数値を公表します。

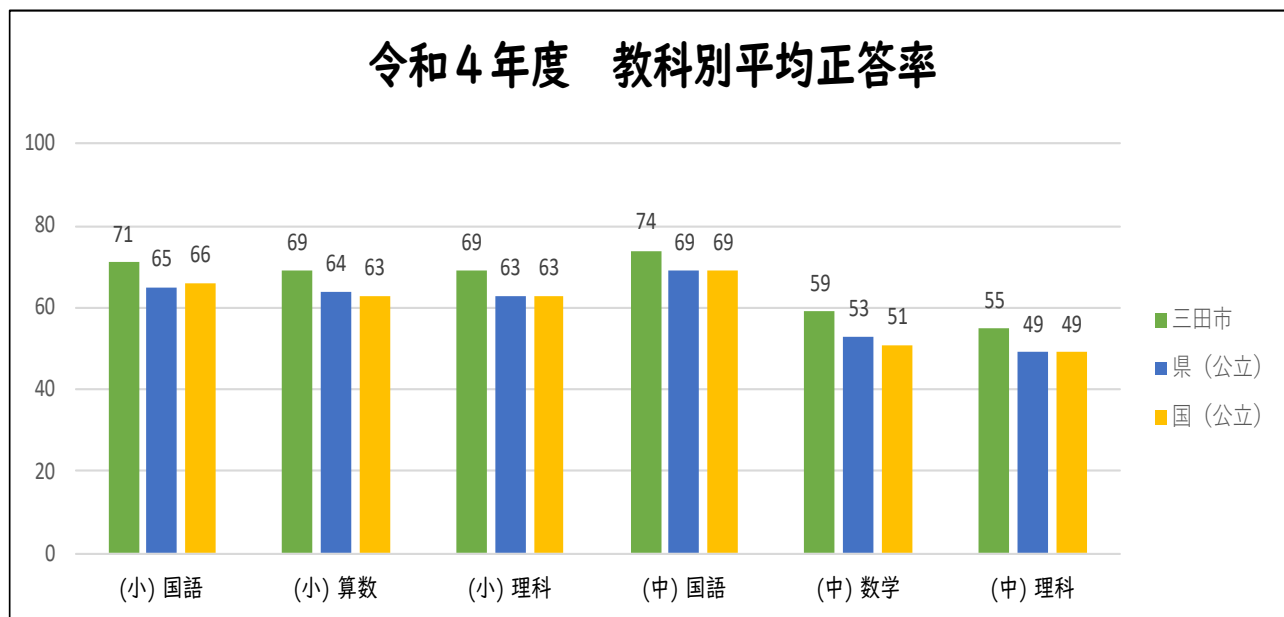
3 子どもたちの学力の定着状況について

「国語、算数・数学、理科」全体の調査結果

全国・兵庫県の状況を踏まえ三田市の現状を分析したところ、結果は

良好でした。

平均正答率（％）



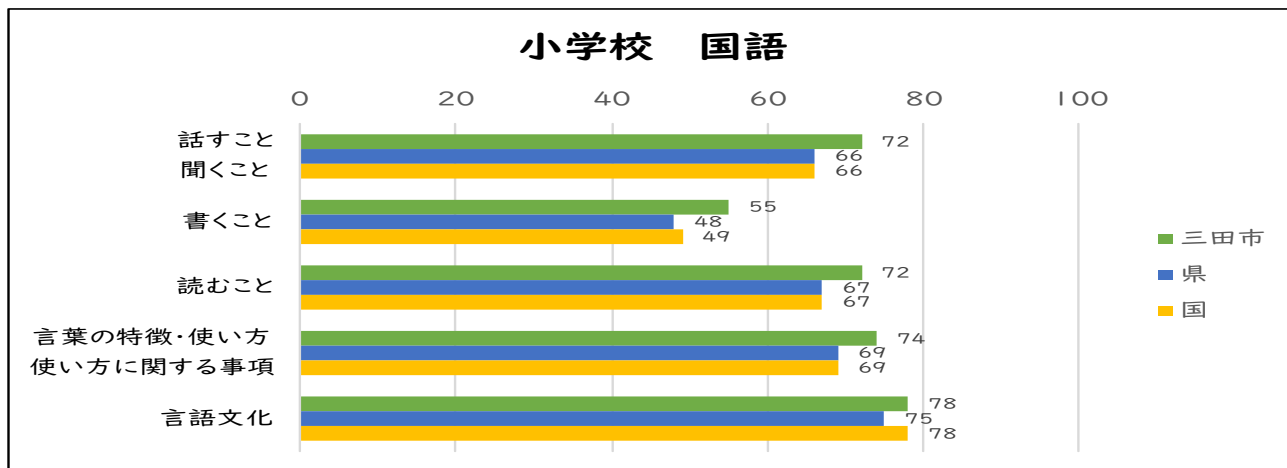
本市の傾向

※国語、算数・数学、理科の全てにおいて、全国・兵庫県の平均正答率を上回っています。

※今年度は、下記の4教科で全国平均を6ポイント以上、上回っていました。

- ・中学校数学（全国平均より+8ポイント）
- ・小学校算数（全国平均より+6ポイント）
- ・小学校理科（全国平均より+6ポイント）
- ・中学校理科（全国平均より+6ポイント）

①小学校：国語



本市の傾向と学びのポイント

※「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域で全国・兵庫県の平均を上回っています

【よくできていること】

- ・本文を根拠にして、登場人物の関係を読み取ること
- ・人物像や物語の全体像を具体的に想像すること

【課題】

- ① 文章のよいところを見つけて記述すること
- ② 計画的に話し合い、考えをまとめること

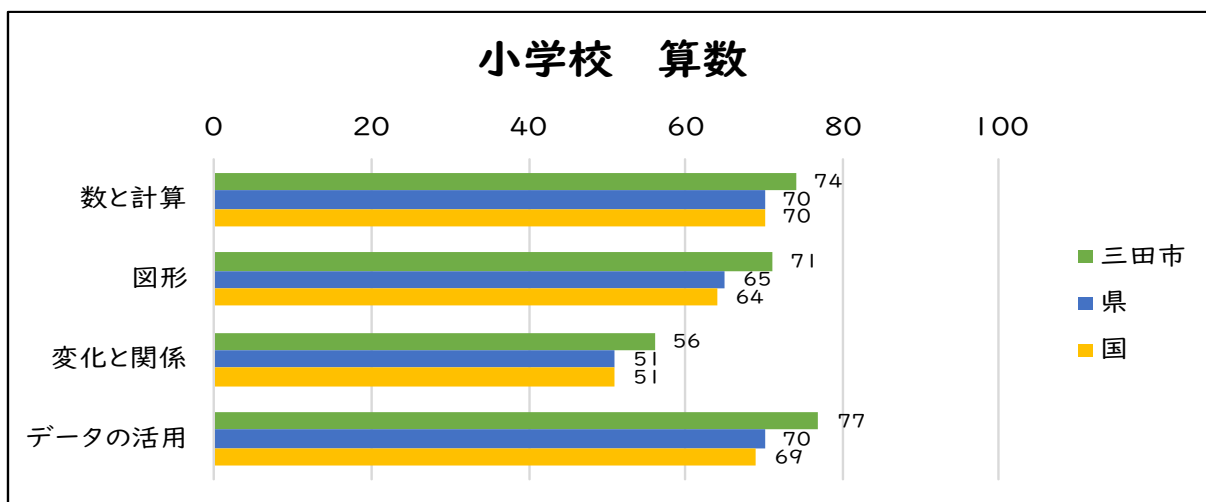
学びのポイント

① 目的に合った表現の工夫を使って書く習慣を身につけよう。

② 伝えたいことを伝えるために必要な情報を取捨選択する力を身につけよう。

- ・文章を読むときには内容だけでなく「どんな書き方をして考えを伝えているかな」と表現の工夫を見つける習慣を持ちましょう。自分が文章を書くときに、それらの工夫を使おうとすることで、文章力は上達します。
- ・話し合いをするときには、どんなテーマで話し合っているのかを絶えず意識しましょう。そのテーマについて意見を伝えるときには、どのような例や情報を選べば相手を納得させられるかを考えましょう。

②小学校：算数



本市の傾向と学びのポイント

※全領域において全国・兵庫県の平均を上回っています

【よくできていること】

- ・ 図形を構成する要素に着目して、図形の特徴を捉えること
- ・ 目的に応じて、データの特徴や傾向を捉えて考えること

【課題】

- ① 数量が変わっても、割合は変わらないことを理解すること
- ② 目的に応じた見積りの計算をすること

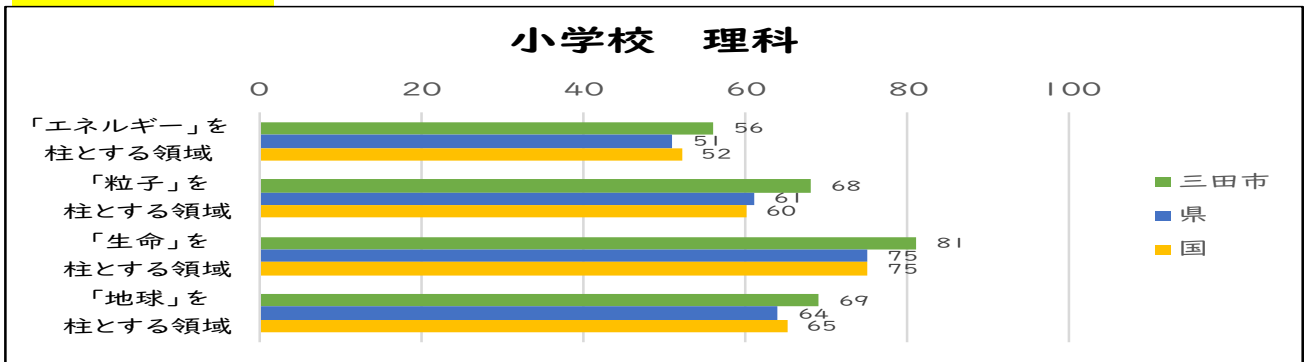
学 び の ポ イ ン ト

① 日常生活につなげて、割合のイメージ化を図ろう。

② 問題場面に応じた概数の使い方を説明しよう。

- ・ 計算で求めた数値と具体的な生活場面（濃さ、混み具合、見積りなど）とをつなぐ活動をしよう。
- ・ ICT 機器などを活用しながら、グラフづくりや数値を読み取る活動に取り組んでみましょう。

③小学校：理科



本市の傾向と学びのポイント

※全領域において全国・兵庫県の平均を上回っています。

【よくできていること】

- ・科学的な言葉や概念について理解すること。
- ・解決すべき課題に対応した視点で実験結果を読み取ること。

【課題】

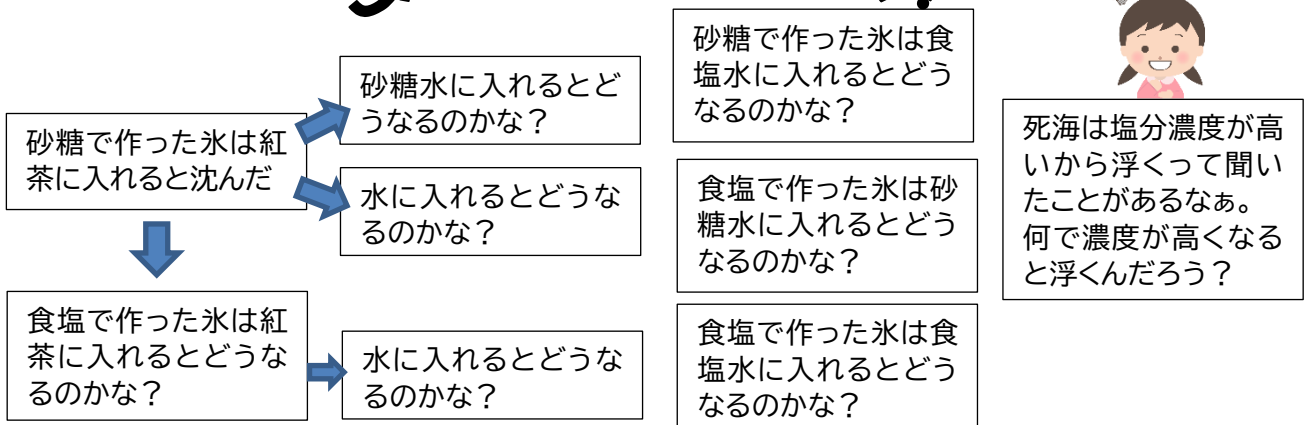
- ① 実験や観察方法を理解、把握すること。
- ② 実験や観察結果を具体的な数値などを根拠として表現すること。

学びのポイント

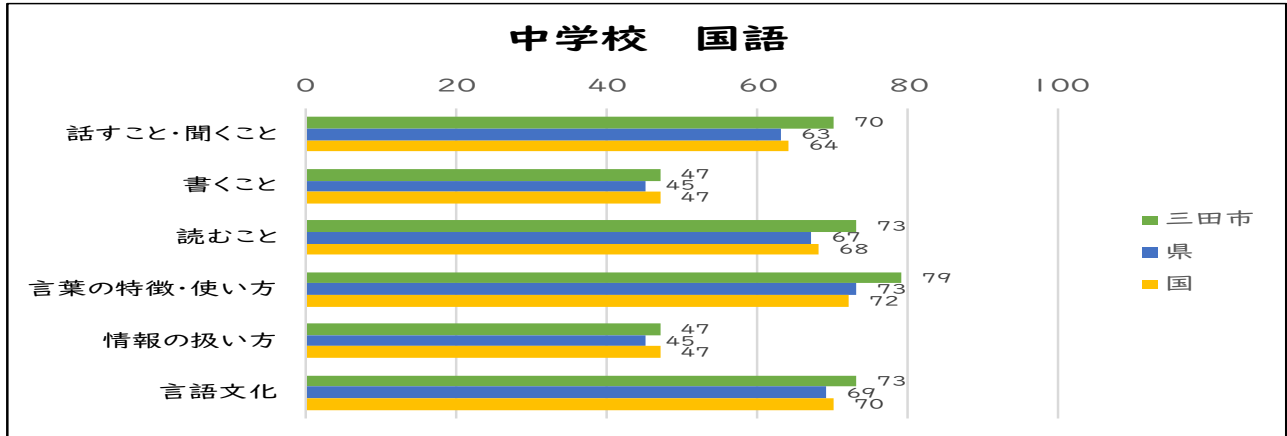
①自分の考えと友だちの考えとを比較しながら、お互いの予想や仮説について交流しよう。

②実験結果から「他の物ではどうなるのか」、「条件を変えるとどうなるのか」など、考えてみよう。

こんな風に考えてみよう！



④中学校：国語



本市の傾向と学びのポイント

※全領域において全国・兵庫県の平均を上回っています。

【よくできていること】

- ・事象や行為、心情を表す語句について理解すること
- ・文脈に即して漢字を正しく書いたり、助動詞の働きについて理解して文章の中で意図的に使ったりすること

【課題】

- ① 自分の考えが分かりやすく伝わるように話し方の工夫を具体的に考えること
- ② 根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くこと

学びのポイント

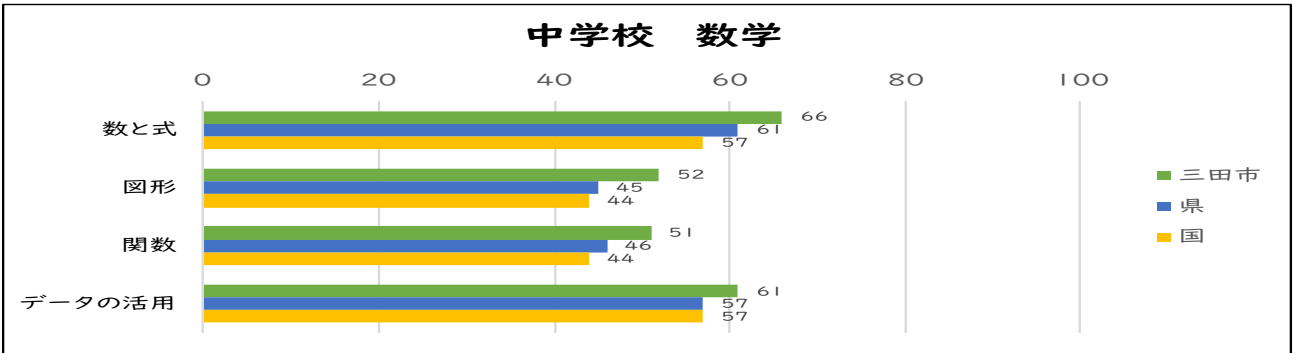
① 自分の感想や思い、意見を書く機会を増やそう。

② 必要に応じてメモを取り、注意深く話を聞く習慣をつけよう。

③ テーマを決めて、周りの人と話し合おう。

- ・いろいろな文章（物語文・随筆文・説明文・論説文・詩歌など）に触れ、語彙を増やすとともに、自分の意見を表現する幅を広げましょう。
- ・自分のスピーチを録音・録画して、自分で確かめる機会を持ちましょう。
- ・話すとき、聞くとき、書くときには5W1Hをより意識しましょう。

⑤中学校：数学



本市の傾向と学びのポイント

※全領域において全国・兵庫県の平均を上回っています。

【よくできていること】

- ・簡単な連立二元一次方程式を解くこと
- ・三角形の合同条件を的確に利用すること
- ・多数の観察や多数回の思考表によって得られる確率の意味を理解すること

【課題】

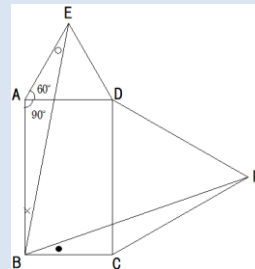
- ・ある条件下で成り立つ図形の性質を見出し、それが成り立つ理由を筋道を立てて考え、数学的に説明（証明）すること

学びのポイント

- ① 証明したい結論とその結論を導くために示したいことを確認する。
- ② 与えられた条件（合同な図形の性質や三角形の内角の和）から示したいことにつながりそうな内容を整理する。
- ③ ②の内容を用いて、示したいことが成り立つことを数学的に説明する。

※図を効果的に活用し、視覚的理解も促す

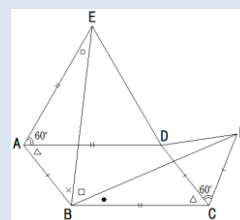
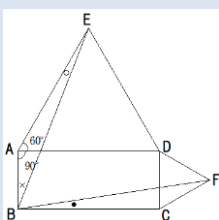
同じ大きさの角に印をつけることで、関係性を直感的に捉えさせる



【発展】図形を変更しても成り立つかを考える

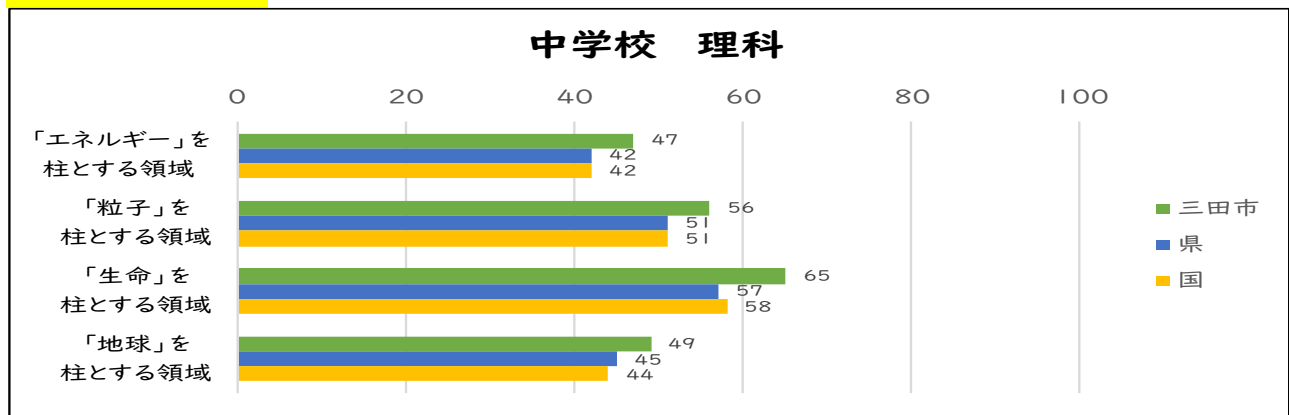
（発展1）元の長方形の形を変える

（発展2）長方形を平行四辺形に変える



※（発展1）は証明していることではあるが、視覚的理解を深めるために確かめてもよい

⑥中学校：理科



本市の傾向と学びのポイント

※全領域において全国・兵庫県の平均を上回っています。

【よくできていること】

- ・モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画すること
- ・化学変化に関する知識及び技能を活用して、化学反応式で表すこと
- ・動物の観察結果から、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈すること

【課題】

- ・化学変化と「エネルギー」に関する知識や技能と関連付けて、身近な現象を科学的に探究すること
- ・力の働きに関する知識及び技能を活用すること
- ・考察の妥当性を高めるために実験の計画を検討して改善すること
- ・地層の傾きを主として時間的・空間的な視点で捉え、分析して解釈すること

学びのポイント

①探究の過程に応じた見通しをもとう。

科学的に探究する上で、予想や仮説から結果を想定し、課題を解決するために適切な探究の方法を探っていくことが大切です。

②考察の仕方を身につけよう。

観察、実験の結果を分析して解釈するうえで、課題で明らかにしようとしていることは何かを整理することが大切です。根拠となるものから、考えたことや判断したことを具体的に記述することで、課題に応じた考察を行うことができるようになります。

3 三田の子どもたちの学習や生活に対する意識・実態について

～児童生徒質問紙調査の結果と教科調査とのクロス集計分析より～



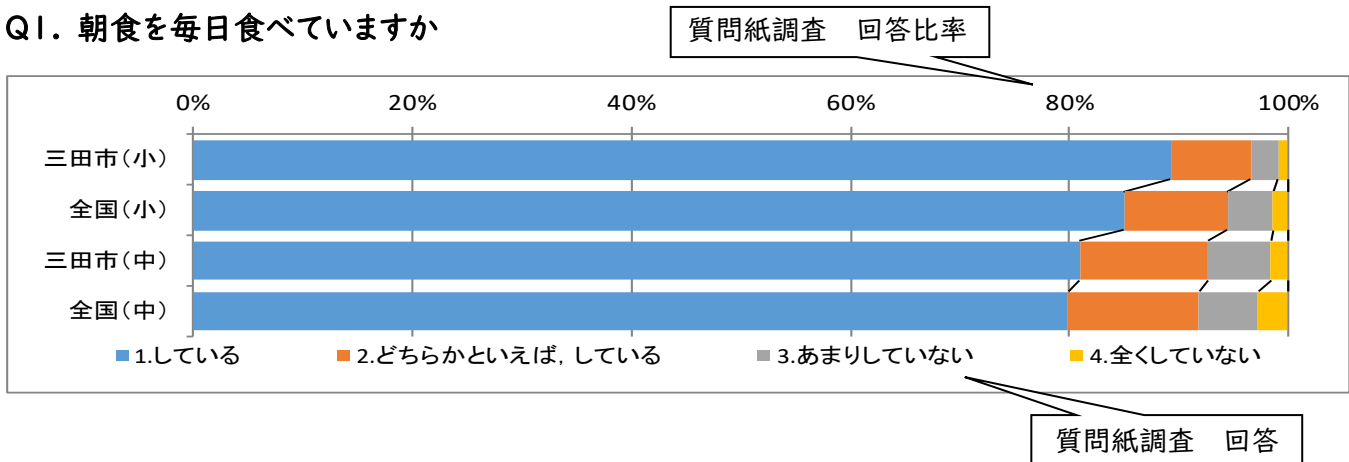
『生活・学習習慣』『学ぶ意欲』『自尊感情』の視点から

児童生徒質問紙調査については、全国値との比較、小中学校の値の比較から、三田市の特徴や課題を分析します。視点は、これまでと同様に『生活・学習習慣』『学ぶ意欲』『自尊感情』です。

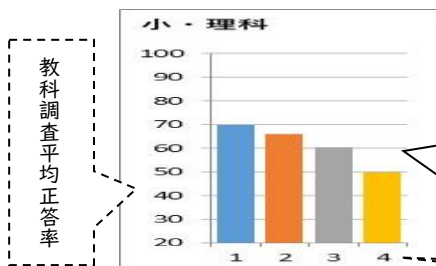
また、平均正答率上位層と下位層の回答内訳から、生活・学習習慣改善へのアプローチを分析します。

I 「生活・学習習慣」と学力

Q1. 朝食を毎日食べていますか



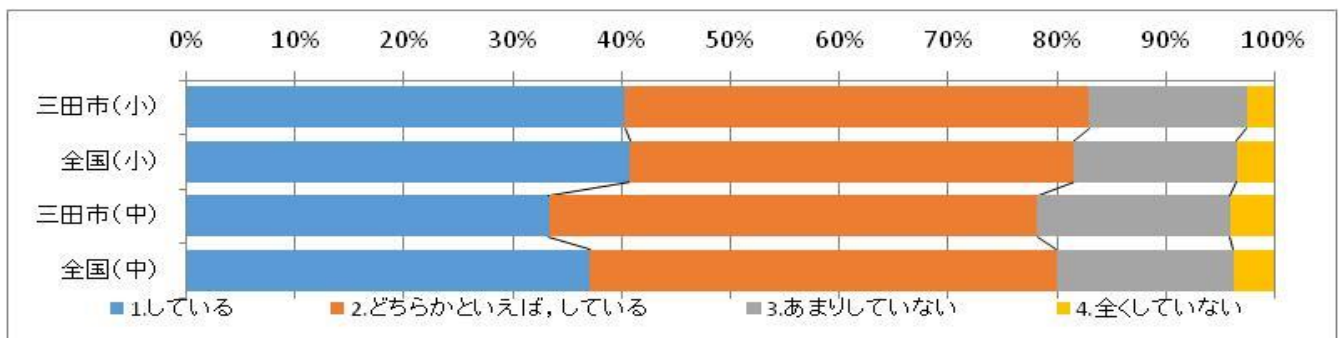
<各教科正答率とのクロス集計>



質問に対する回答者の教科の平均正答率をグラフにしたものです。左のグラフでは、「朝食を毎日食べていますか。」の質問に対して『1. している』と回答した児童の平均正答率が約70%であることを表しています。このグラフでは、質問に対して肯定的に答えた児童の正答率が高い傾向にあることから、規則正しい生活をする 것과正答率に相関関係があることが分かります。

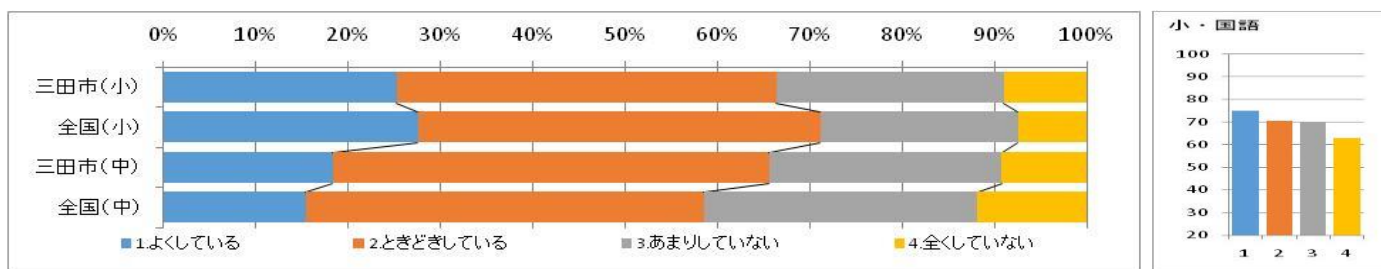
質問紙調査回答番号

Q2. 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか

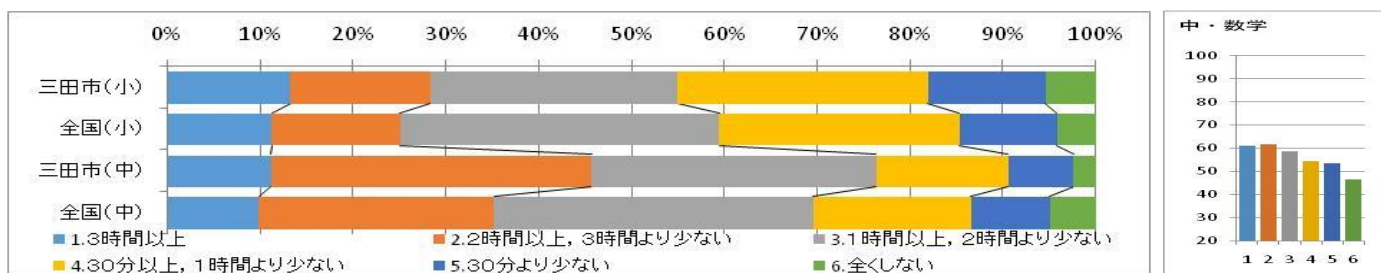


- 今回の調査からも、生活習慣を整えることが学力向上の要因の一つとなることが表れています。
- 中学生になると規則的な生活習慣の確立が小学生時代より難しくなっています。
- 基本的な生活習慣の確立を図るためには、時間を有効に使うために児童生徒が自己の生活習慣を振り返ったり、家庭と学校が連携して児童生徒の生活習慣作りをサポートしたりする取組が大切です。

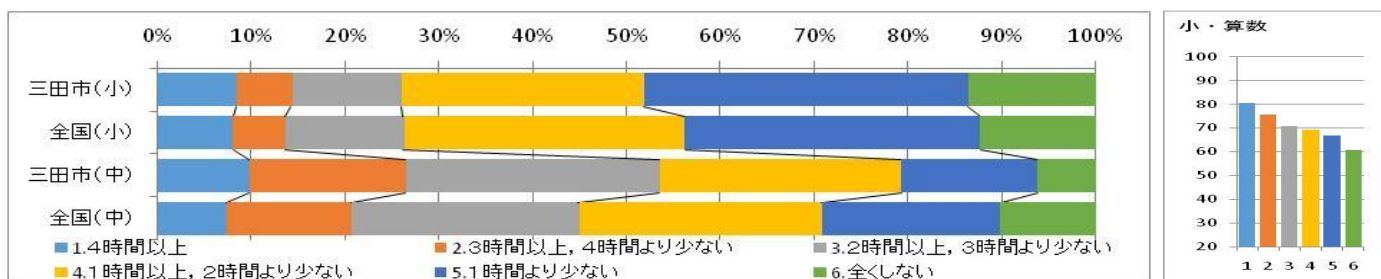
Q20. 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）



Q21. 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

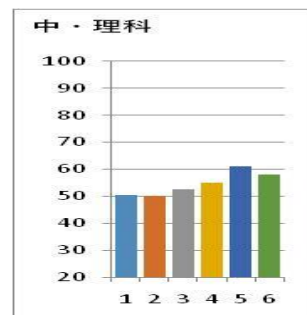
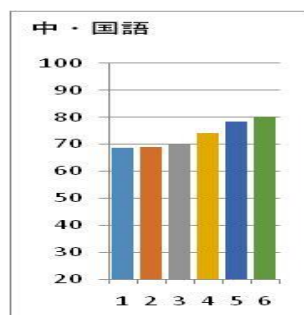
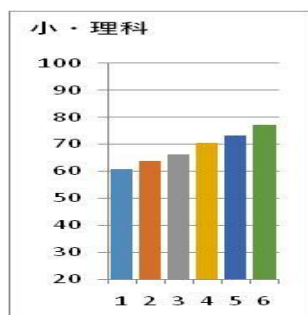
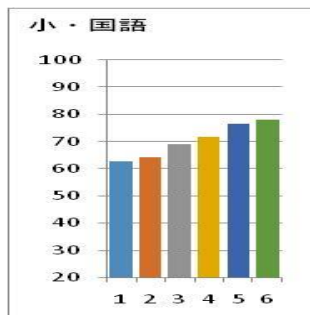
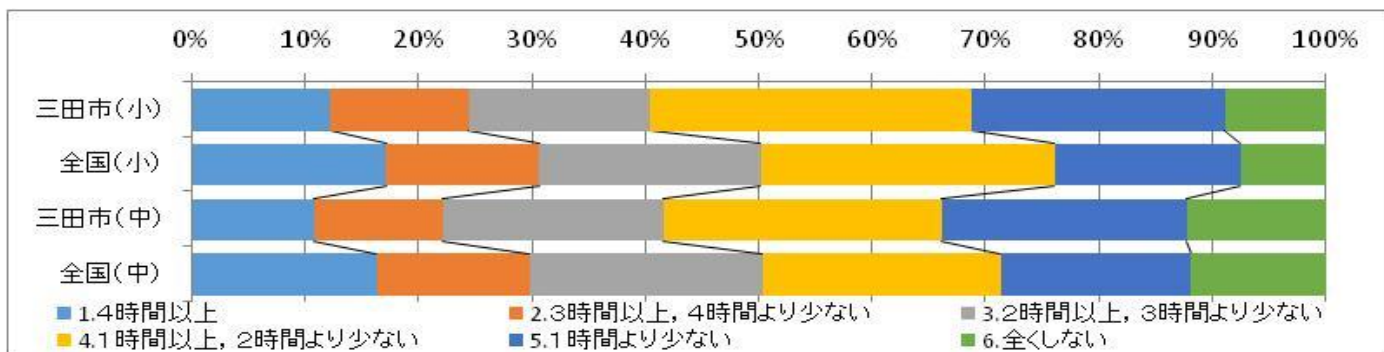


Q22. 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

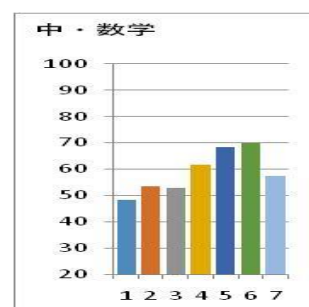
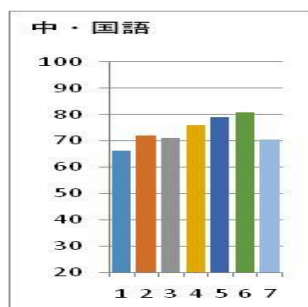
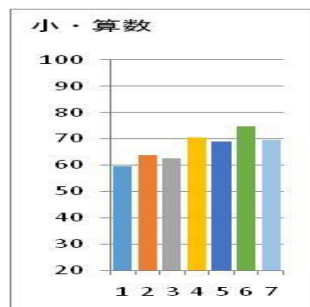
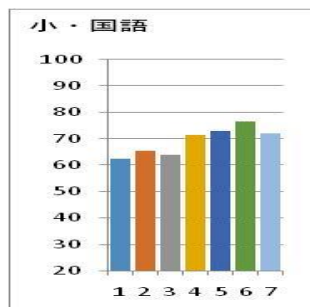
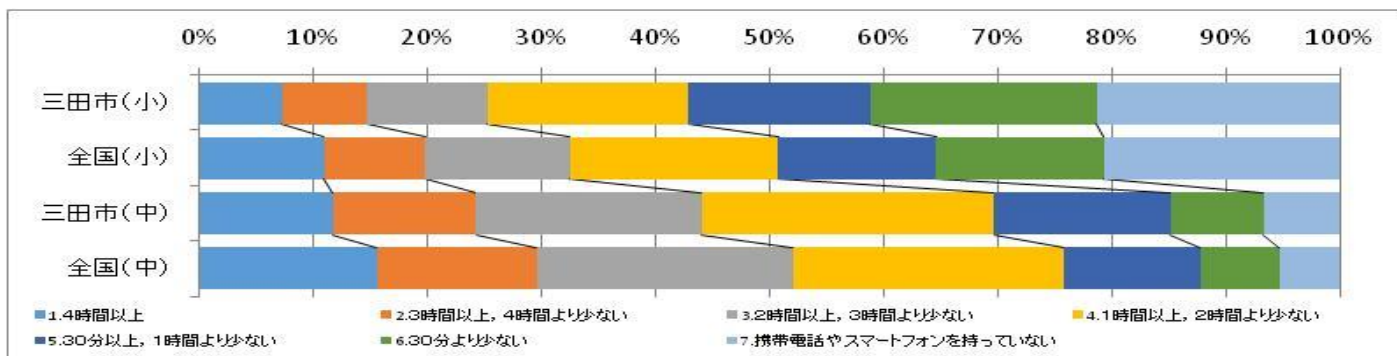


- 「計画を立てて勉強する」と答えた児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向にあります。児童生徒が自己の目標に向かって、計画的に宿題に取り組んだり、その日の学習内容について復習したりすることは学力の向上につながると考えられます。一方、なかなか自分で計画を立てて学習に取り組めていない児童の割合は全国より多いです。
- 学校の授業時間以外における児童生徒の勉強時間は、平日に2時間以上勉強をしている児童生徒の割合は、小学生28.4%（全国25.1%）で3.3ポイント、中学生45.7%（全国35.2%）で10.5ポイントそれぞれ全国平均を上回っています。また、休日に3時間以上勉強している児童生徒の割合は、小学校14.3%（全国13.6%）で0.7ポイント、中学校26.4%（全国20.6%）で5.8ポイントそれぞれ全国平均を上回っています。小学校段階から家庭での勉強時間が確保できており、望ましい学習習慣が中学生になっても一層定着していることが学力の向上につながっています。一方、学校以外での学習時間が30分未満の児童の割合は全国より多い状況となっています。
- 小学校5年生全員に配布している『ひとり学びへの手引き』を今年度から小学5、6年生は1人1台端末でも閲覧できるようになりました。『ひとり学びへの手引き』を活用することや、「やるべきことに優先順位をつけること」、「勉強時間を十分に確保すること」など、学校や家庭において、児童生徒の家庭学習を促すように働きかけることが大切です。
- また、児童生徒の家庭学習に対して、学校や家庭でその努力を認め励ますなど、児童生徒が自信をもって学習に取り組めるよう支援するとともに、児童生徒が自分にあった勉強方法や学習習慣を身につけていくことが望まれます。

Q5. 普段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, テレビゲーム(コンピュータゲーム, 携帯式のゲーム, 携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか



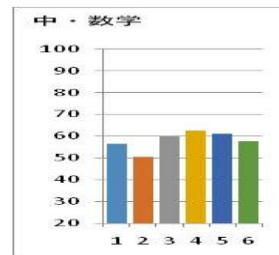
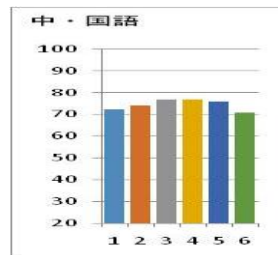
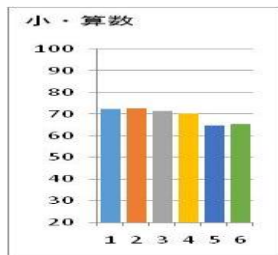
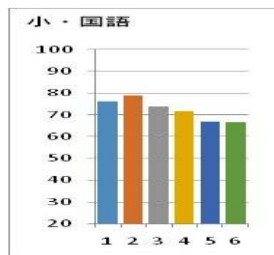
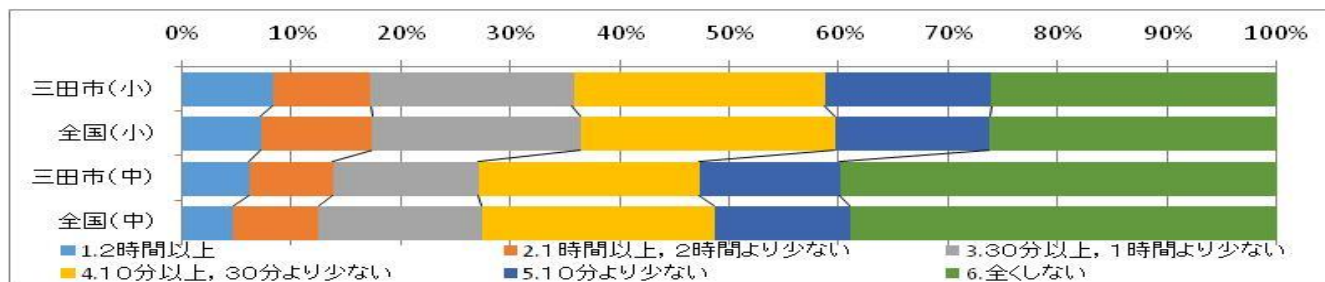
Q6. 普段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く)



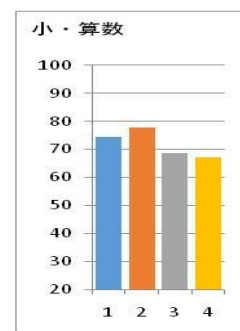
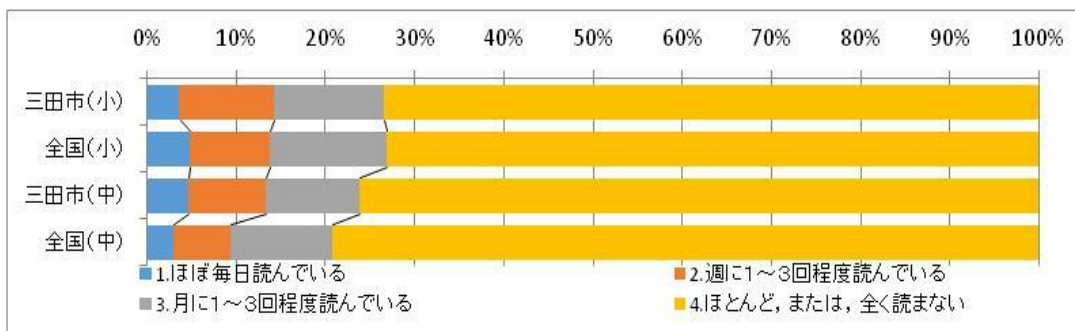
○ゲームを全くしないまたは、1時間より少ない児童生徒の割合は、小学生31.2% (全国平均23.9%) で7.3ポイント、中学生33.8% (全国平均28.6%) で5.2ポイントそれぞれ全国平均を上回っています。また、ゲームをする時間が少ない児童生徒の割合は、国語・算数・数学・理科のすべてにおいて、平均正答率が高い傾向があります。

○一方で、3時間以上ゲームをする児童生徒の割合が、小学生が24.5% (全国平均30.7%)、中学生が22.1% (全国平均29.8%) います。ゲームやスマートフォン等の長時間の利用についてルールを決めたり、児童生徒が一日の目標や計画を立てたりするなど、自分の目標に向けて時間を管理する「タイムマネジメント力」を育てていくことが大切です。

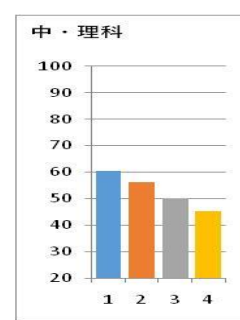
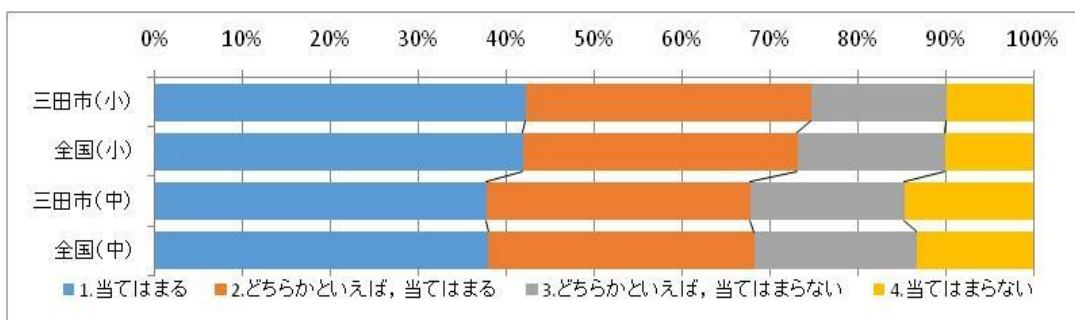
Q23. 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）



Q25. 新聞を読んでいますか



Q26. 読書は好きですか



- 学校の授業時間以外に1日当たり30分以上読書すると回答した児童生徒の割合は、小学生35.6%（全国平均36.4%）、中学生27.1%（全国平均27.3%）と全国と同程度でした。
- 一方で「読書が10分未満」と回答した児童生徒の割合は、小学生41.2%（全国平均40.4%）、中学生52.8%（全国平均51.3%）と学校の授業以外での読書時間の少ない児童生徒も多くいます。
- 新聞を週1~3回以上読んでいると回答した児童生徒の割合は、小学生14.3%（全国平均13.8%）、中学生13.4%（全国平均9.4%）と全体の15%以下ですが、新聞を週1~3回以上読んでいる児童生徒は国語・算数・数学・理科のすべてにおいて、平均正答率が高い傾向があります。
- 読書が好きという質問に対し、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学生74.8%（全国平均73.1%）、中学生67.8%（全国平均68.2%）と全国と同程度でした。
- 三田市では、小学校における学校司書の配置や学校図書館の充実、さんだっ子読書通帳の活用や読書タイムの設定等の取り組みを行っており、今後も継続して読書活動の充実を図ることにより、読書の楽しさを伝え、読書習慣の確立につなげていきたいと考えています。

2 「学ぶ意欲」と学力

学習指導要領の総則において、「言語能力」、「問題発見・解決能力」、「情報活用能力（情報モラルを含む。）」等が学習の基盤となる資質・能力として示されています。『主体的・対話的で深い学び』のある授業の実現により、こうした資質・能力を育てていくことが求められています。

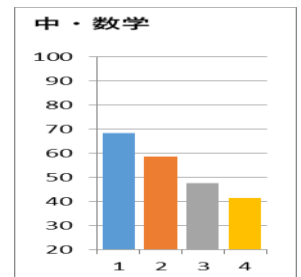
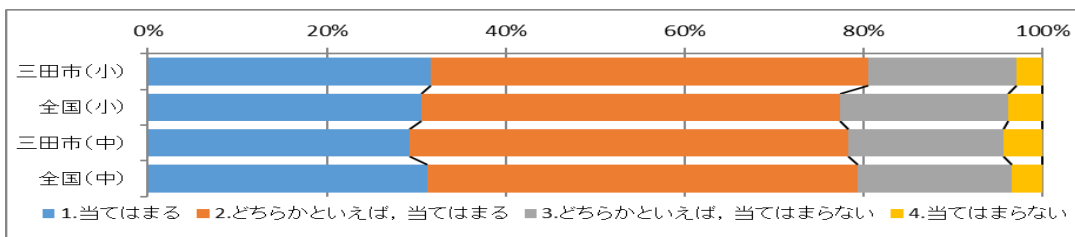
『主体的・対話的で深い学びの実現の視点からの授業改善』について

- 【主体的な学び】… 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次の学習につなげる。
- 【対話的な学び】… 子ども同士の対話、子どもと教員、子どもと地域の人、本を通して本の作者などとの対話を図ることによって、自己の考えを広げ深める。
- 【深い学び】… 学びの過程（習得→活用→探究）の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう。

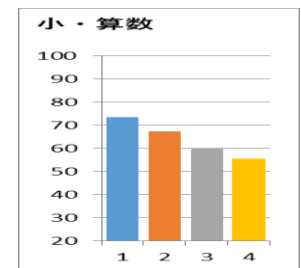
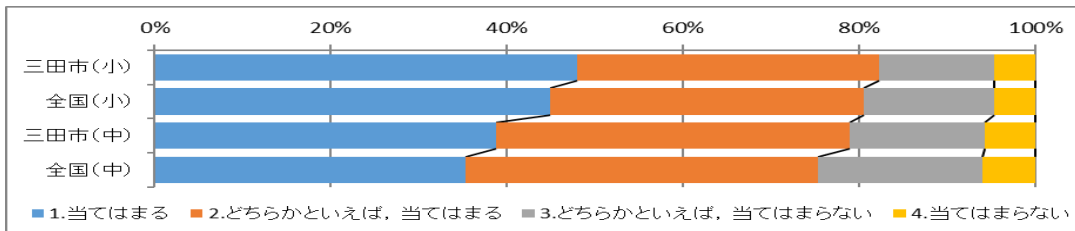
ここでは、「学ぶ意欲と学力」について、『主体的・対話的で深い学び』の視点から、児童生徒質問紙調査について分析します。

【主体的な学び】の視点から

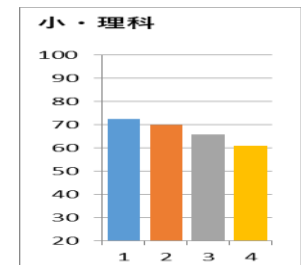
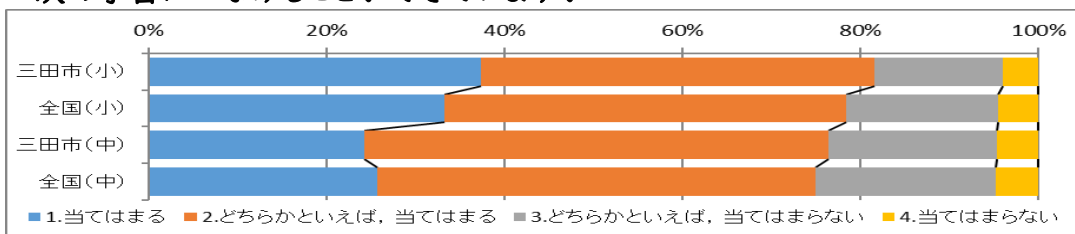
Q39. 5年生まで〔1,2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



Q58. 算数〔数学〕の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか



Q44. 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

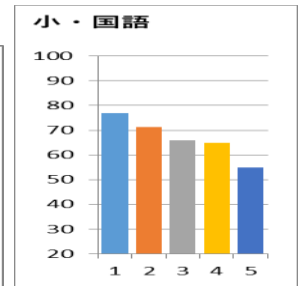
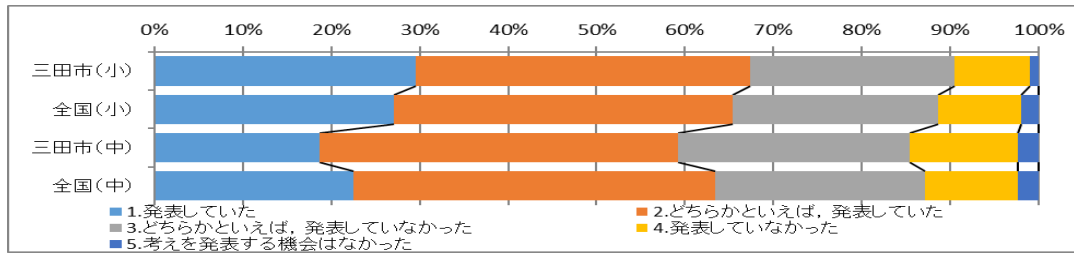


粘り強く学習に取り組んだり、学んだことを他の学習に生かしたりすることを意識しよう

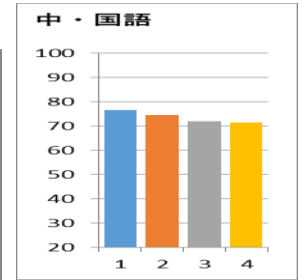
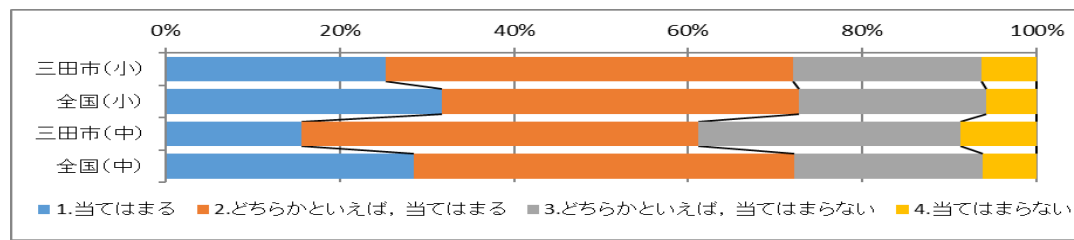
- 「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む」では、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小中学校ともに全国平均とほぼ同程度です。また、「諦めずに学習に取り組む」ことについては、小学校では肯定的に答える児童が8割を超えています。「学んだことを見直し、次の学習につなげる」では、肯定的に答える児童生徒の割合が小中学校ともに全国平均を上回っています。
- 主体的に学ぶ意欲が高い児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向にあることから、「粘り強く学習に取り組む力」や「自らの学びを調整し、次の学びに生かしていく力」を育む学習を充実させていくことが大切です。

【対話的な学び】の視点から

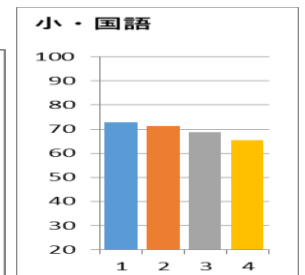
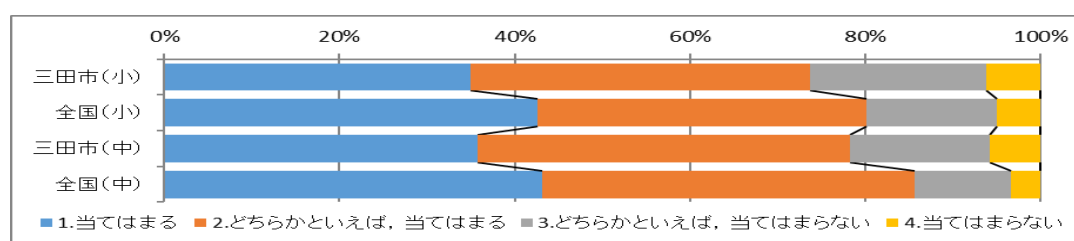
Q38. これまでに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



Q45. 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



Q48. 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか

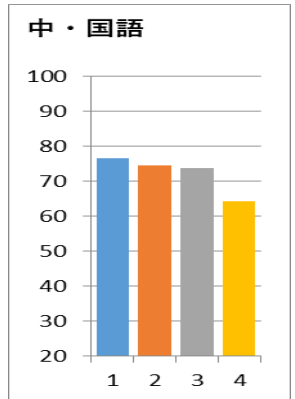
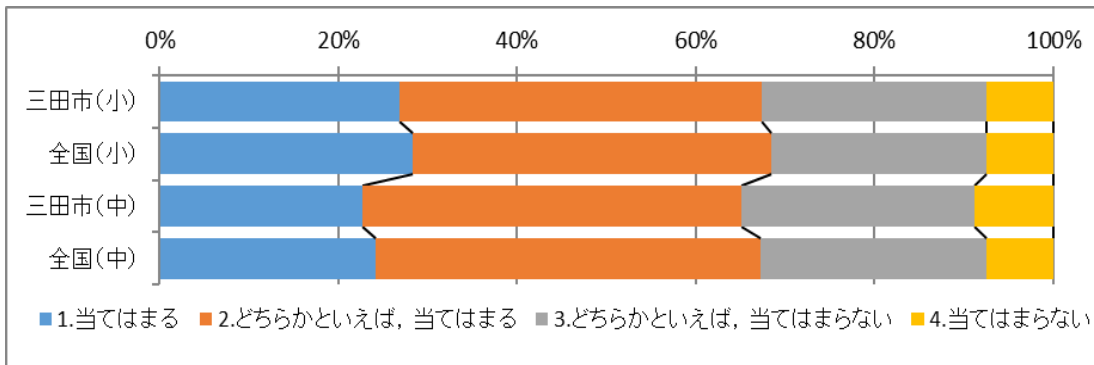


対話を通して論理的に考えたり批判的に考えたりする力、自分の考えを深める力を身につけよう

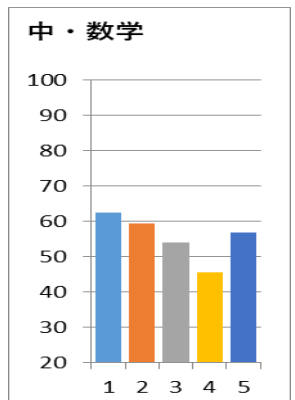
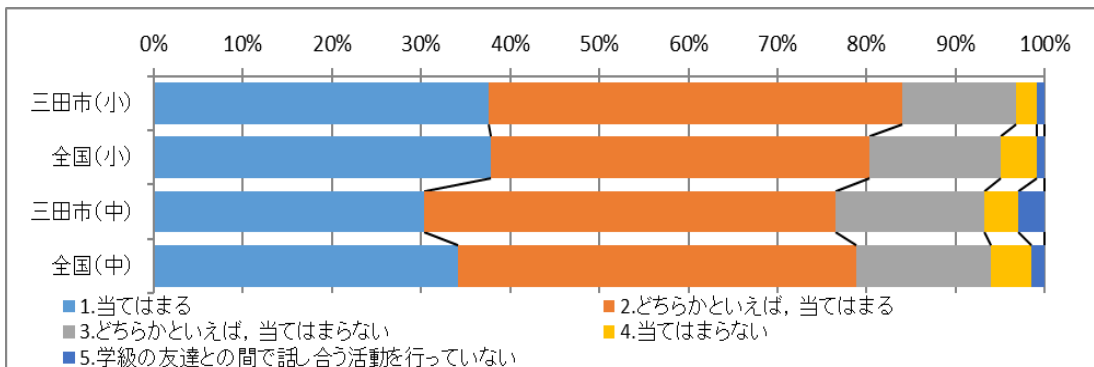
- 「資料や文章、話の組立てを工夫して発表していた」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校、中学校ともに全国平均と同程度となっています。「自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表」では、小学校で同程度、中学校では全国平均を下回っています。
- 課題解決に向け、他者と協働的に学習に取り組む授業を充実させ、論理的に考えたり批判的に考えたりしたことを表現につなぐことが大切です。また、道徳の授業においては、多様な他者との対話を通して、自分の考えを深めたり、グループで話し合ったりする活動の充実が大切となります。
- 自分の考えをうまく伝える方法を考えたり、効果的な資料を選択あるいは作成したりできる力の育成のためには、1人1台端末や学習支援アプリを活用し、自分の意見を決定したり、考えをまとめたりする活動が有効です。そのためには、アプリの機能やクラウド環境を生かして、他者の意見を視覚的に捉えるような仕掛け、異なる意見の者との対話が生まれる展開となるような発問を工夫するといった、授業改善が求められます。授業に限らず、様々な日常場面で1人1台端末を効果的に活用することで、必要な情報の収集、選択、整理するといった基本的な情報活用能力を育てていかななくてはなりません。
- これまでの取組を大切にしながら、児童生徒が主体的に学ぶような環境づくりや対話的な活動を各教科・領域において推進することにより、協働的な学びを充実し、自分の考えを深めていくといった学習を展開することが大切です。

【深い学び】の視点から

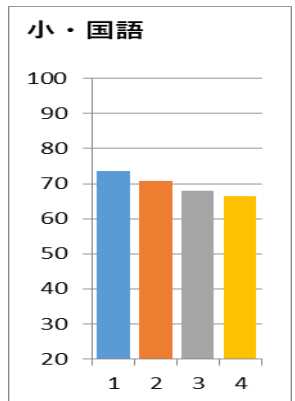
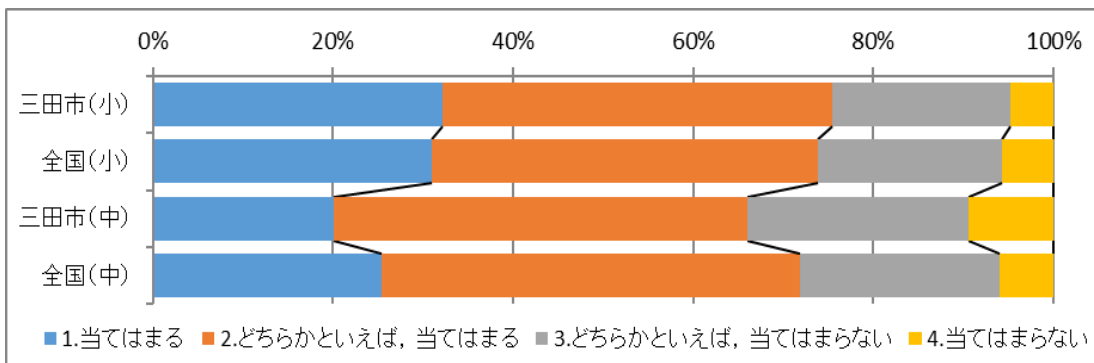
Q41. これまでに受けた授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていましたか



Q43. 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか



Q47. 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか

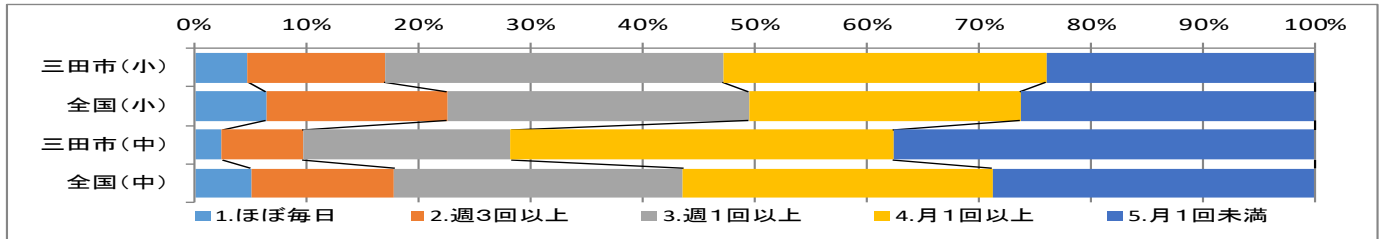


目的に応じて情報を選択したり関連付けたりして、理由を明確にして自己の考えを表現しよう

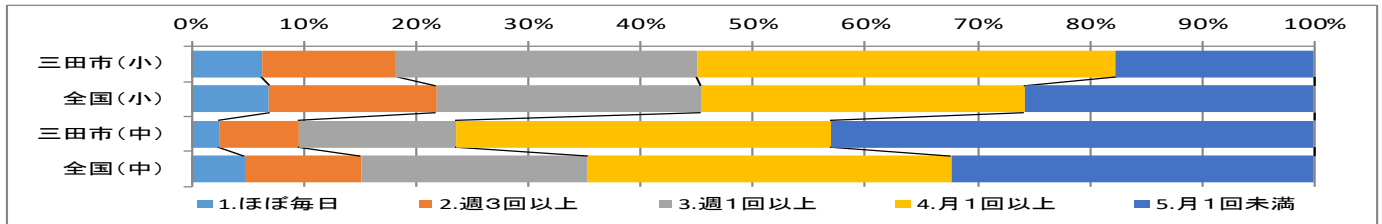
- 「自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていましたか」、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国平均と同程度です。
- これらの項目に肯定的に回答した児童生徒ほど平均正答率が高いことから、目的に応じ必要な情報を選択し関連付けたり、課題解決の過程を説明したりするなど、自己の考えを適切に表現できる力を育成することが、学力向上において大切であることが伺えます。
- 学習活動においてコンピュータ等の情報手段を適切に用いて情報の収集・整理・分析・表現・発信等を行う情報活用能力の育成のために、各教科等の特質に応じて適切な学習場面でICTを活用することが重要です。
- 学習状況や習熟度等の学習履歴(ログ)を活用して、自分の学習計画を立てたり、調整したり、また、自己の生活状況を見直していく力の育成も大切です。

【ICT 機器の活用】の視点から

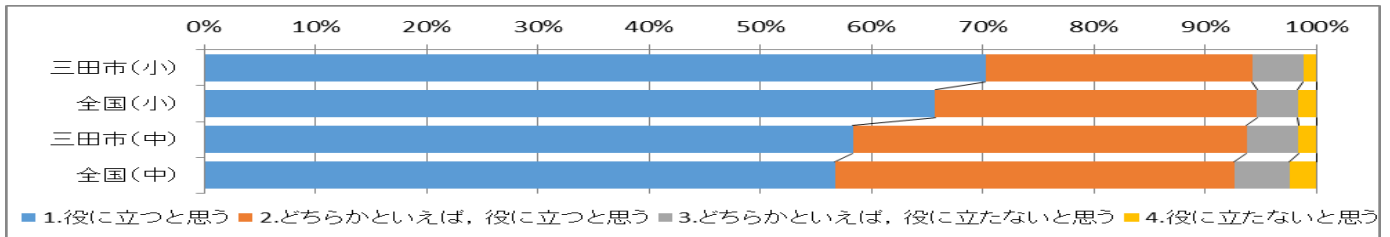
Q34. 学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか



Q35. 学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか



Q36. 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか



『主体的・対話的で深い学び』『ICT 機器の活用』の分析を通して



- ・自己の学びを丁寧に振り返り、「どのように学んだのか」を意識しよう。
- ・ICT 機器を学習ツールとして活用する機会を増やそう。

- 『主体的・対話的で深い学び』の視点からの分析を通して、三田市では「課題解決に必要な情報に着目し、それらに関連付けて自己の考えを形成すること」「自己の主張を支える理由付けを大切にしながら学習すること」「課題解決に向けて他者と協働し、粘り強く学習に取り組むこと」ができる児童生徒の割合が高く、このような児童生徒ほど平均正答率が高い傾向にあります。
- 一方、三田市においては、児童生徒が自身の意見を整理する、他者に伝えるといった活動をはじめとする、「個別最適な学び」「協働的な学び」のためのツールとしての ICT 活用が全国と比較して進んでいない状況にあります。
- 子どもたちの視点からは、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」は全国と比較しても高いことから、授業をはじめとする教育活動で使用する経験から ICT に対して「学ぶときに便利なアイテム」と感じていたり、これからの活用に期待をもっていたりすると考えられます。
- ICT機器を活用した「個別最適な学び」「協働的な学び」を往還することで、「自らの学びを振り返り、次に生かす力を育む授業」「友だちとの対話を通し学びを深める授業」「教科特有の『見方・考え方』を働かせ、考える力を育む授業」など、子どもたちの主体を引き出すための授業改善を推進することが一層重要になってきます。あわせて、日常生活でICT（情報通信技術）を用いることが当たり前となっている児童生徒に、情報モラルと合わせて、情報や情報手段を主体的に選択し活用していくための「情報活用能力」を育成することが重要です。



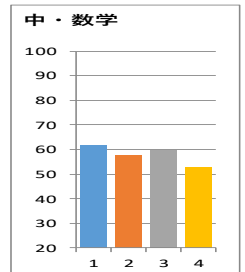
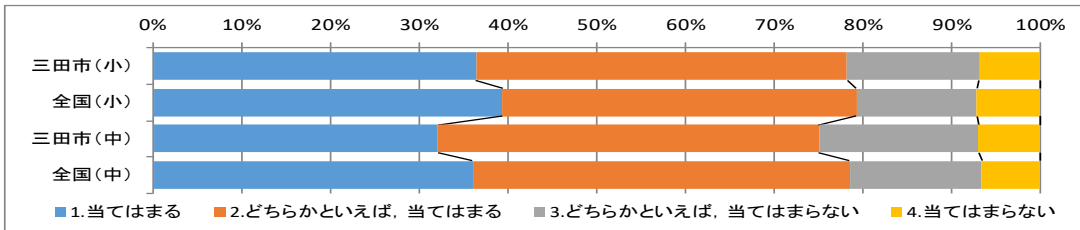
3 「自尊感情」と学力

今、学んでいること、頑張っていることが未来の「自分」につながっている、そんな気づきを通して、児童生徒が学習への向き合い方や人間関係作り、社会とのつながりについて考えていくことが大切です。

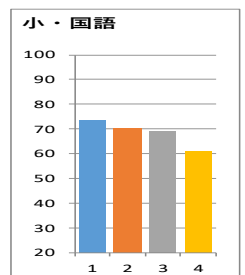
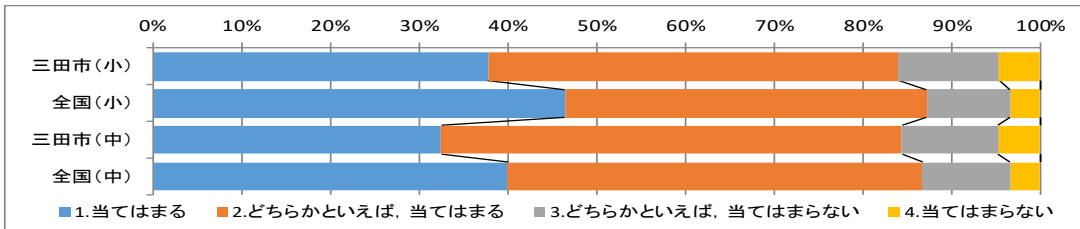
ここでは児童生徒を取り巻く教育環境の観点から、自尊感情・キャリア教育、人や社会とのつながり、学校生活に関連する項目を分析します。

自尊感情・キャリア教育の視点から

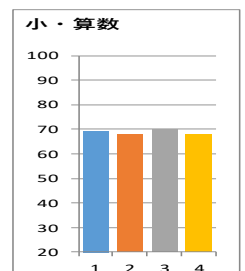
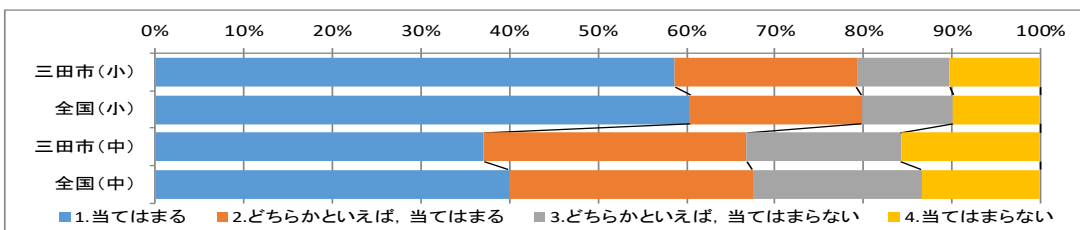
Q7. 自分には、よいところがあると思いますか



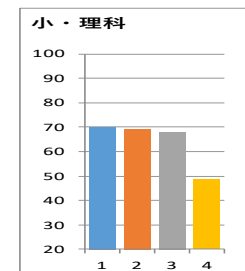
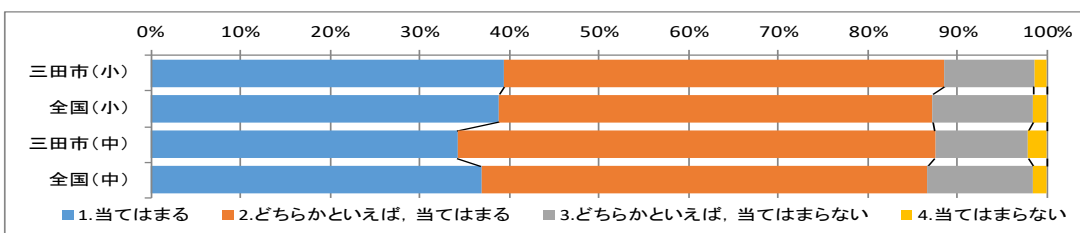
Q8. 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。



Q9. 将来の夢や目標を持っていますか



Q10. 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか



めざす子ども像「自分が好き、人が好き、このまちが好き、夢に向かって歩むさんだっ子」

○肯定的に回答した児童生徒の割合

Q7「自分にはよいところがある」小学校：78.3%（全国 79.3%）、中学校：75.1%（全国 78.5%）

Q8「先生は自分のよいところを認めてくれている」小学校：84.1%（全国 87.1%）、中学校：84.3%（全国 86.6%）

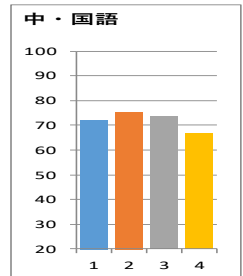
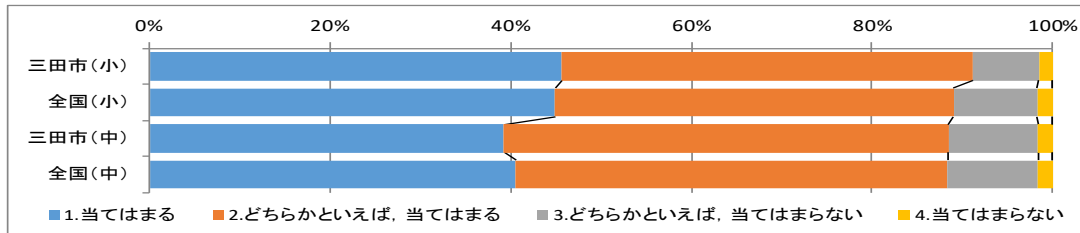
Q9「将来の夢や目標を持っている」小学校：79.2%（全国 79.8%）、中学校：66.7%（全国 67.3%）

Q10「自分でやると決めたことは、やり遂げる」小学校：88.5%（全国 87.2%）、中学校：87.5%（全国 86.6%）

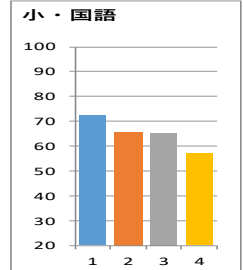
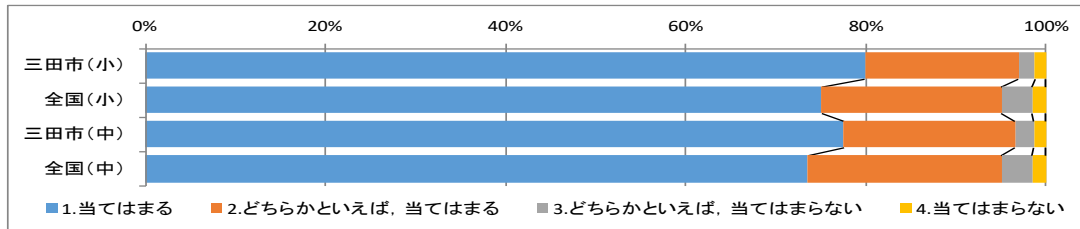
「自分にはよいところがある」、「先生は自分のよいところを認めてくれている」と感じている児童生徒の割合は、全国平均よりやや低い傾向にあります。また、各項目において、肯定的に回答した児童生徒の平均正答率は、高い傾向にあります。子どもたちは、周囲から自分のよさや成長を認められることで、自分のよさや可能性を認識し、自ら挑戦しようとする意欲を高めていきます。子どもの良さを認め励ますなど、周囲からの毎日の声かけにより、子どもたちの自己肯定感を向上させ、将来の夢や目標につなげられるようにしていくことが大切です。

人や社会とのつながりの視点から

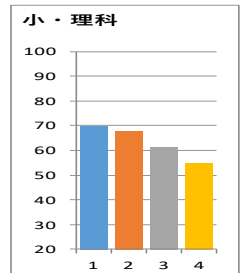
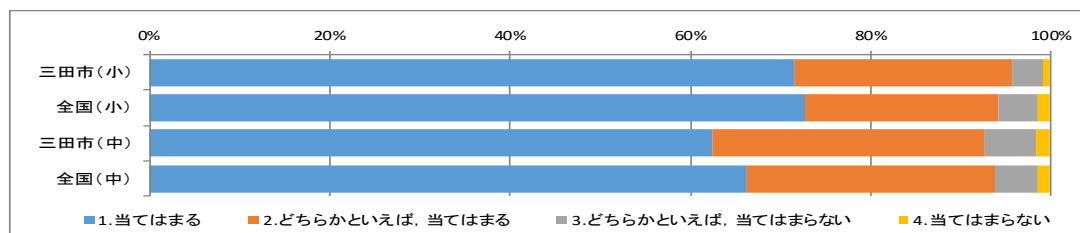
Q12. 人が困っているときは、進んで助けていますか



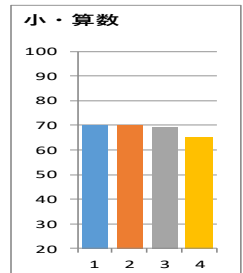
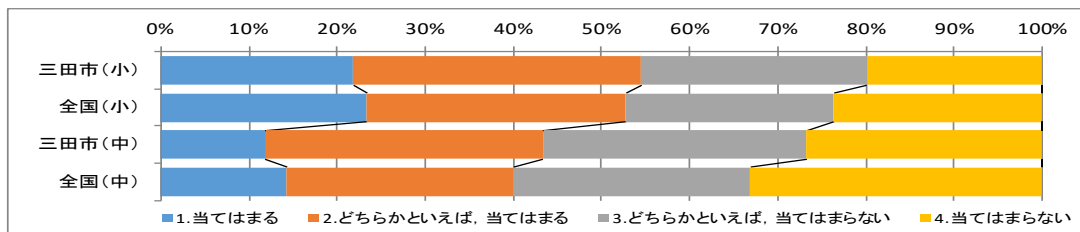
Q15. 人の役に立つ人間になりたいと思いますか



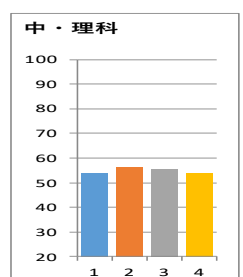
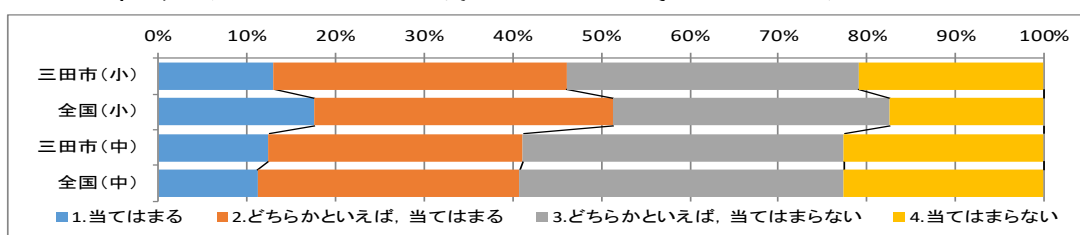
Q18. 友達と協力するのは楽しいと思いますか



Q29. 今住んでいる地域の行事に参加していますか



Q30. 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか



地域や学校の中で、人や社会とのつながりを深めながら、自分の良さや可能性を伸ばしていこう

○Q12「人が困っているときは、進んで助けている」、Q15「人の役に立つ人間になりたい」、Q18「友達と協力するのは楽しい」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、下記の通りで概ね全国平均と同程度です。

Q12 小学校：91.1%（全国 88.9%） 中学校：88.6%（全国 88.4%）

Q15 小学校：97.0%（全国 95.1%） 中学校：96.6%（全国 95.0%）

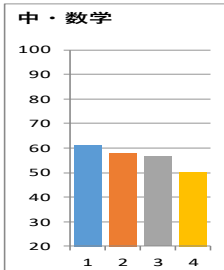
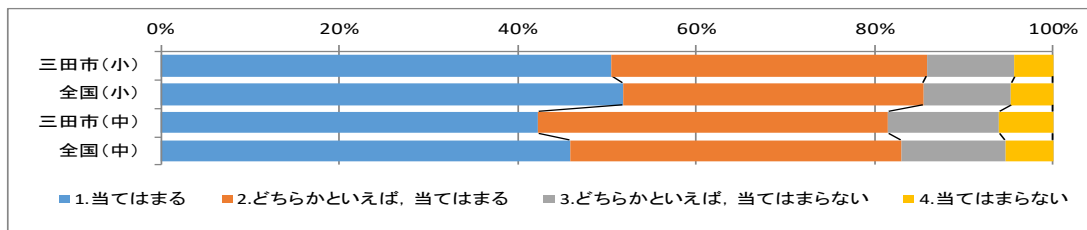
Q18 小学校：95.8%（全国 94.0%） 中学校：92.5%（全国 93.7%）

○「地域の行事に参加している」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校 54.5%（全国 52.7%）、中学校 43.4%（全国 40.0%）で、前回調査から、小学校で 10.3 ポイント、中学校で 6.1 ポイント低下しました。

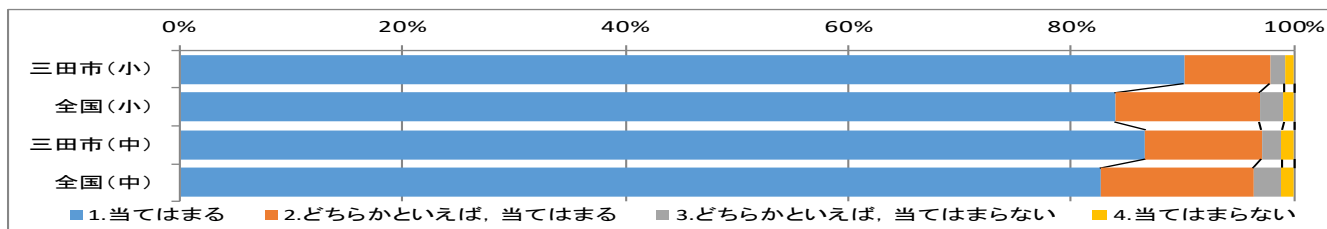
○コロナ禍の影響を受けて、児童生徒の地域行事への参加する割合は低下しています。人とつながる場を、学校だけでなく地域等で充実させることで、子どもたちは人とのつながりを通して、自己を見つめたり、他者や地域への関心を高めたりして、自分の良さや可能性を伸ばしていきます。子どもたちが多様な人とのつながりの中で成長していけるように、学校、家庭、地域との連携を深めていきましょう。

学校生活の視点から

Q16. 学校に行くのは楽しいと思いますか

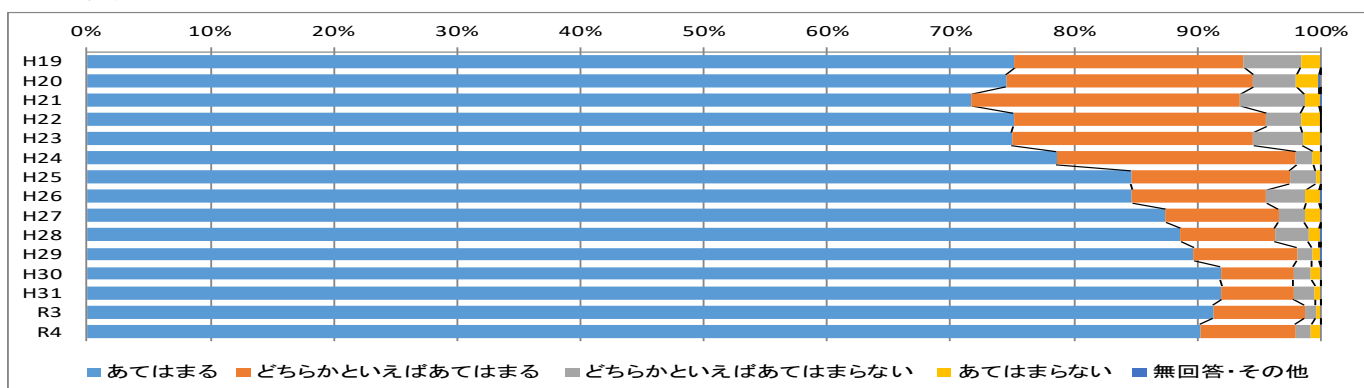


Q13. いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

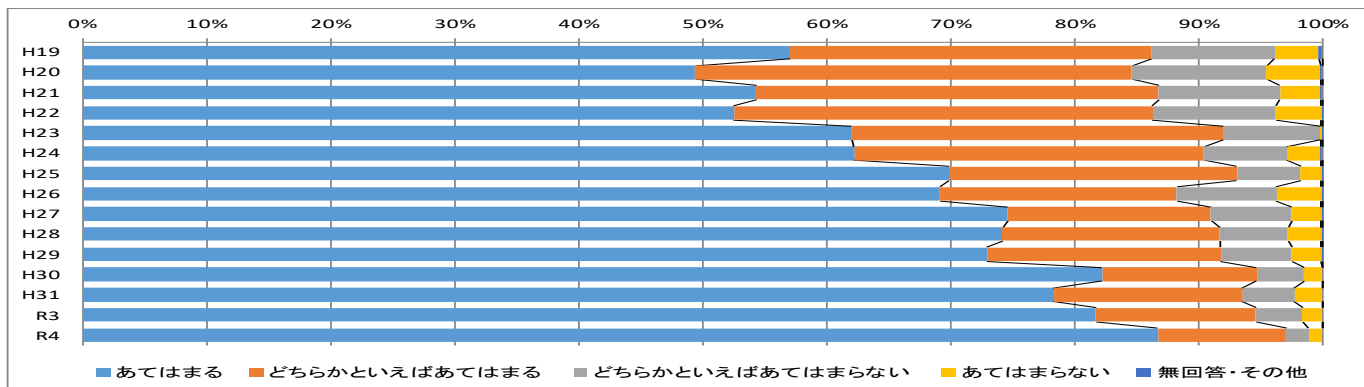


平成19年度からの経年比較 「いじめは、どんな理由があってもいけない」

<小学校>



<中学校>



『見逃すな!いじめの芽 咲かせよう!笑顔の花』 三田市立中学校生徒会



- 「学校に行くのは楽しい」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校で85.8%（全国85.4%）、中学校で81.5%（全国82.9%）です。前回調査（R3）から、中学校では3.5ポイント増加しました。コロナ禍の状況が続く中で、学校が子どもたち一人一人にとって、安心して人とつながったり、学習したりする場となることが大切です。学校と家庭が連携して子どもたちの様子を見守っていくとともに、多様性を認め、尊重し合う仲間づくりを継続して進めていきましょう。
- 「いじめはどんな理由があってもいけない」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校で97.8%（全国96.8%）、中学校で97.0%（全国96.4%）でした。中学校は、前回調査よりも2.4ポイント増加し、過去調査で一番高い割合です。100%を目指して「いじめを許さない」という意識を継続して高めていく取組が必要です。